



税金は、みんなの幸せのために 税金のない世界は、大変だ!

小学生一人一人に使われている税金は、1年間で約90万円です!

小学校、中学校、高校は12年間で1000万円以上もらっていることになるそうです。

1000万円の重みを、持ってみてさらに感じました。

税金は、警察、消防、学校教育、医療、ごみ処理、道路整備など、わたくしたちの暮らしを快適に、そして幸せにするためにあることを、社会科の学習で学びました。

わたしたちの身の回りには、国や都道府県、市区町村による公共サービスや公共施設があり、それらにかかる費用の多くは、税金によってまかなわれていることを理解しました。物を買った時にかかる消費税も税金の一種であり、自分たちも税金を払っていたことに気づきました。

国の税金の集められ方やその使われ方(予算)は、国民の代表者である国会議員によって決められます。だとしたら、18歳になったら、しっかり「選挙に行こう」と考えました。

6月25日の租税教室では、たくさんの学びがありました。小学校から高校までの12年間で、子ども一人当たり、1000万円以上の税金が使われるという事実には、驚きました。だとしたら、「しっかり学ばなくては!」と感じてくれたのでしょうか。

「もし税金がなかったら、町中ごみだらけ、火事を消してもらおうのにお金がかかり、事故にあっても病院に行けない。町から公園は消え、警察の仕事を注文制でやってもらう。」など、何とも困った世界の様子をアニメで表現したVTRを視聴しました。

「税金はどのように集めたら、国民にとって平等か。」
「サービスを受けるために、税金を払うことの意味は。」
「国が背負った借金（国債）を返すには、どうしたらよいのか。」など、講師である税理士の先生から、難しい問いかけがありました。自分たちなりに、しっかり考えた一時間でした。

振り返りより

- ・税金は、ぼくが思っている以上に身近にあり、そのおかげで生活が成り立っていることが分かりました。

- ・税金は、私たちが生活する上でとても大切な存在だと思いました。税金のおかげで住みやすい町になり、人々の命を助けてくれるのだと思いました。

- ・ぼくは、税金がどれだけ重要なのか改めて分かりました。税金があるから生活が成り立っていると分かったので、税金は必ず払わなければいけないと思います。

- ・今日の授業で、前に習ったよりもさらに税金の大切さが分かりました。何より驚いたのが、小中高で一人1144万5000円もの税金が支払われていることです。これが支払われているとなると、もっとしっかり勉強しようと思いました。



税金の大切さを実感し、大人になったら、しっかり税金を払いたいという振り返りが、多くありました。

人類の全ての学びが、持続可能な社会の形成につながることを感じながら、租税教室での学びを生かし、社会の仕組みにも感謝して、主体的に学び続けて行きましょう。